

2022年8月16日

部キ連 加盟教団・教派
関係者 各位

部落問題に取り組むキリスト教連帯会議

議長 奥村貴充



部キ連ニュース第56号のお詫びについて

荊冠の主をたたえます。

残暑の候 日中なお厳しい暑さが続いておりますが、皆様におかれましてはお変わりなくご清栄のことと存じます。

さて先日 加盟教団・教派、関係者の皆様に部キ連ニュース第56号をお送りいたしました。その中で差別用語が使用されているとのご指摘を受けました。読者の方々、またハンセン病回復者の皆様にはご迷惑をおかけしましたこと、心からお詫び申し上げます。

下線部が訂正・追記した箇所です。100年前の当時の表現のためカギ括弧を付け、また差別用語には「(原文ママ)」といたしました。

ここに部キ連ニュース第56号をお送りした皆様に郵送にてお届けするとともに、部キ連のホームページにも掲載いたします。これからは十分注意するとともに、部キ連ニュース編集の任を担ってまいりますので、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

在 主

記

部キ連ニュース第56号の訂正箇所

頁	行	訂正前	訂正後
5	上段 左から5行目	当時の新聞は「十数名の警官山窩退治に貧民部落を焼く 居住権ある納税住民は激高し、放火の告訴をすると騒ぐ」と報じている。彼ら部落民は、温泉宿の客に物乞いをする、らい患者が多い、別府市内に穢れを撒き散らしていることなどから、焼き打ちしてもよいという考え方が警察の記録に残っている。	当時の新聞は「十数名の警官山窩退治に貧民部落を焼く 居住権ある納税住民は激高し、放火の告訴をすると騒ぐ」と報じている。 <u>「彼ら部落民は、温泉宿の客に物乞いをする、らい患者(原文ママ)が多い、別府市内に穢れを撒き散らしていることなどから、焼き打ちしてもよい」</u> という考え方が警察の記録に残っている。

以 上